

CBDCフォーラムの今後の運営について

2026年2月2日
日本銀行決済機構局



CBDCフォーラムのこれまでの活動

- これまで、全体会合を5回、WGを79回、合わせて84回開催。
- 登壇した企業数は163社を数える（延べ社数）。

	2023年						2024年												2025年												26年 1月	総数
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
全体会合	●					●												●											●	5回		
WG1		●	●	●●	●	●	●	●	●	●	●	●																	11回			
WG2		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		15回				
WG3		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		14回				
WG4				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12回			
WG5					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		11回			
WG6									●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		8回			
WG7											●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	8回		
会合回数 (月次合計)	1回	2回	3回	4回	3回	5回	3回	5回	4回	4回	2回	4回	6回	1回	5回	1回	4回	2回	4回	2回	5回	3回	1回	3回	2回	1回	3回	1回	84回			
登壇社数 (月次合計)		5社	10社	7社	8社	9社	10社	9社	8社	4社	7社		9社	10社	3社	10社	5社	7社	4社	14社	5社	2社		4社	5社	1社	7社	163社				

(注1) 登壇は、プレゼンタ、モデレータ、パネリストなどで貢献いただいた社数。関係企業としての登壇を含む。

(注2) 共同開催の場合は、会合回数・登壇社数ともに主たるWGのみをカウント。

CBDCフォーラムの運営にかかるヒアリング①

(問題意識)

- CBDCフォーラムは、2023年7月の設置以降、幅広いテーマに関し、リテール決済に関わる民間事業者の協力を得て、精力的に議論・検討を重ねてきた。この結果、CBDCに関する様々な技術的な知見を得ることができている。
- 他方、WGによっては現状の枠組みでは**議論・検討に一巡感**が出てきているなど、**今後も同様の進め方をしていくことに難しさ**を感じる参加者も出てきている。
- デジタル化社会における決済を巡る**内外の動向に大きな変化**があるなか、引き続き、CBDCフォーラムにおいて効果的・効率的に議論・検討を進めていくためには、その**運営方法やテーマ設定等について、改善余地**が生じている可能性。

(ヒアリングの実施)

- こうした問題意識に基づき、**昨年7月～9月にかけて、運営方法やテーマ設定等に関するヒアリングを実施。**
- 参加者全員に連絡して意見を募ったほか、希望先に対しては個別に面談を実施（**全64先中33先**）。

CBDCフォーラムの運営にかかるヒアリング②

(ヒアリング結果及び検討の方向性)

- ・ヒアリングで聞かれた論点の整理、及び検討の方向性については以下の通り。

運営面の論点

①本行からの情報発信と双方向での議論

②テーマ別WGでの議論一巡・WGの統合再編

③全体感・スケジュール感の提示

テーマ設定面の論点

④CBDCアーキテクチャー（制度・システム面）

⑤新たなテクノロジー

⑥エコシステム

検討の方向性

「WGの統合・再編」

・現行の7つのWGでは議論が一旦一巡。再編にあたっては、WGの数を絞り込んだうえで、各WGの間口を広げる。幅広いトピックや横断的なテーマを取り扱う事が出来るようにすることで、継続性を向上。

・議論を整理すると、「制度・システム面」や「テクノロジー」、「エコシステムや未来像」といった点について関心が高い。

「双方向性の向上」

・本行からの情報発信を行うことで、双方向の議論を深める。
・特に制度・システム面についての前提が示されない下での議論には限界があったところ、可能な範囲、可能なやり方でこれを提示することで、継続的かつ解像度の高い議論が行える。

「全体感・スケジュールの提示」

・各WG毎に議論する下、全体感が見えないといった声があるほか、理解のバラツキも大きい。他WGの議論にも自由に参加できるようにすることも一案。

・スケジュール感についても、フォーラムとしてのロードマップ（どの位を目途に議論を取り纏めるか、ペーパーを出すか）等は可能な範囲で示していくことが出来ないか。

(参考) WG共同開催の実績

- 今年度は、横断的なテーマ等について、WG共同開催を積極的に実施。
 - 昨年10月から12月にかけて、共同開催のWGを4回実施

開催時期	テーマ	WG
10/14	<ul style="list-style-type: none">・先進外銀の預金トーカンの研究・ブロックチェーン取引におけるプライバシー保護機能・トーカン規格とコンプライアンス・Web2とWeb3の垣根がない信頼されるインターネットインフラ構築	WG4・WG2
10/31	<ul style="list-style-type: none">・インターネットバンキング不正出金対策・決済端末を活用したアプリプラットフォーム	WG5・WG3
12/9	<ul style="list-style-type: none">・民間デジタルマネーにおけるオフライン決済	WG6・WG5
12/22	<ul style="list-style-type: none">・CBDCパイロット実験システムの概要・カナダ中銀ディスカッションペーパー “A Retail CBDC Design for Basic Payments: Feasibility Study”の紹介	WG4・WG2

- 他WGメンバーへの配信についても、内容に応じて実施。
 - WG4（5/28）、WG5（9/22）、WG7（9/3、11/5、12/10）

CBDCフォーラムの今後の運営方針

- CBDCを含めた決済システムの将来像を念頭に置きつつ、幅広いテーマについて、本行－民間事業者間での双方向の議論が、解像度の高い形で継続的に行えるよう、現行7つのWGを3つのディスカッショングループ（DG）に統合・再編する。

①CBDCアーキテクチャーに関するDG

②新たなテクノロジーに関するDG

③CBDCエコシステムに関するDG（含むAPIサンドボックスPJ）

- 呼称を**Discussion Group (DG)** とするのは、これまでのWGと区別するとともに、より双方向での議論を重視することを企図したもの。なお、メンバーを限定した現在のWGの枠組みの活用余地を残すため、**現在のWGの枠組みは残す**。
- DGへの参加は、現在のWGに参加している全64社が可能なものとする。
- 議論するテーマについては、会合毎に設定し、当該テーマに応じたプレゼンタを本行・参加者の中から決定するとともに、指定討論者に数名ご登壇いただく予定。
- 統合・再編後のCBDCフォーラムでの議論は、ホールセール決済システムにかかる検討にも活用していく。

CBDCフォーラムの構成および想定される個別テーマ

- 新たに組成するDGと現行WGとの大まかな関係及び想定される個別のテーマは以下のとおり。

WG1 : CBDCシステムと外部インフラ・システム等との接続
WG3 : KYCとユーザー認証・認可
WG5 : ユーザーデバイスとUI/UX
WG7 : 基本機能の事務フロー

WG2 : 追加サービスとCBDCエコシステム
WG6 : 他の決済手段との水平的共存

